

京都検定 よもやま話

第29回

京都検定講演会講師による「よもやま話」。
京都検定を通じて、京都の魅力を再発見しましょう。

京の街で聞く「あの音」、京で聴こえる「その音」



塩原 直美
京都観光
アドバイザー

「音」には、自ら率先して「聴こう！」とする「音」と、自分の意志とは関係なく聞こえてくる「音」がある。と日頃から感じています。そして京都には、「無音」を聴く心もあるような…。今回は、そんな京都の「音」についてお話しします。

コロナ禍で移動が制限されていた頃、東京住まいの私は京都が恋しくて、ネットでよく聴いていたのが

京都市営地下鉄の発車メロディーや入線・接近音でした。街中で当たり前前に聞こえていた「あの音」。

写真や動画もさることながら、「日常の音」がこんなにも心を癒してくれるのかと感涙したことを覚えています。それ以来、京都の日常の音を聞き逃さないよう散策しています。西陣の機織りの音、鴨川を流れる水の音、バスの中で聞こえる京ことば、そして風に乗って聞こえる寺の鐘の音…。時代祭の前夜にふと聞こえてきたのは、祇園祭の町会所からの二階囃子でした。「もう来年の練習？いや、明日の時代祭の晴天を祈る日和神楽では！」と、勝手に感動したことがあります。

一方、積極的に聴く「音」と言えば「水琴窟」でしょう。あれば必ず水を落とし、筒に耳を当てます。京都に水琴窟は数あれど、どれ

一つとして同じ音はありません。涼しく澄んだ音色に、体感温度が下がる心地がします。そして、音がないからこそ聞こえる「音」の代表は、葵祭の「牛車の車輪音」。京都三大祭の中で唯一「音」がない葵祭では、あの「ギーギー」という車輪の軋む音が「妙に大きく」聞こえます。周囲が非常に静かだからでしょう。引いている牛の頑張り感も伴って、なかなか渋くて趣のある良き音です。

言葉では表しきれない京都の音風景、ひとときでも感じていただけましたでしょうか。たまにはイヤホンを外し、街にある親しみのある音を意識して、新しい京都を発見してみたいかがでしょうか。

※京都観光文化検定試験®、「京都検定®」およびそのロゴマークは、京都商工会議所の商標です。無断で使用することはできません。

第27回京都検定を 実施しました！

昨年12月14日に第27回京都検定を実施し、計4817名の方にご受験いただきました。過去の本コラムでも取り上げた「昭和期の京都」、「京都の博物館・美術館」、「京都の松竹梅」を1、3級の公開テーマとして各級10問ずつ出題しました。2級では、今回のコラムテーマである「京を彩る音」も出題されました。受験された皆様、お疲れ様でした！合否発表は、1月23日（金）です。



試験会場の様子



◀ 京都検定の詳細はこちら
または

京都検定

